

埼玉県企業トップに聞く

原材料価格の高騰やトランプ米政権の発足など、国内外の経済・政治状況が大きく変化している。先行きの見通しが難しい中、埼玉県内の企業が高い技術力を生かして市場のニーズに応えた新製品の開発や設備投資などを実行し、さらなる成長に向けて歩みを進めている。埼玉県の有力企業8社に、2025年の抱負や経営戦略を聞いた。

増幸産業

社長

増田 真也 氏



ハーベス

代表取締役

前田 知憲 氏



日本シーム

CEO

木口 達也 氏



大森機械工業

社長

大森 利夫 氏



「日本発の技術」で世界に貢献

「足元の事業環境をどうする。こうした需要に応えるうみがありますか。」
「国内は自動化ニーズが継続しており、包装設備の大型化が進んでいる。包装工程をワンストップで行う需要が高いため、複数の包装機械や検査装置などを含んだ一貫ラインは全長が長くなると。こうした需要に応える。こうした需要に応える。こうした需要に応える。」
「そのほかの設備投資の計画は。」
「越谷工場（埼玉県越谷市）を拡張し、製造体制の強化を図る。組立工場部分の延べ床面積は、現状比約2.5倍の4818平方メートルに拡大し、包装機械の大型化に対応する。5階建ての建屋で、本社機能も備えている。1階と3階に工場スペース、2階には工場事務所を配置し、4・5階には事務所や社員食堂を設ける計画だ。さらに、営業フロアはフリーアドレス制を導入する予定だ。着工は27年、完成は29年を予定している。」
「中国ではインスタン

廃プラ再生で「ゼブラ企業」に

「廃プラスチックリサイクル装置の製造を手がけていますが、2024年秋に欧州のリサイクル事情を視察したそうです。」
「視察団に参加してドイツやスペインを巡り、ゴミを分別するソーティングセンターなどを見学した。欧州ではリサイクルが非常に進んでいる。厳しいレギュレーション（規制）、若者の意識の高さ、マシンテクノロジーの進歩がリサイクル率を高めている。日用品の容器には再生素材の割合が表示され、環境問題への意識の高い若い女性らが増えている。日用品の容器には再生素材の割合が表示され、環境問題への意識の高い若い女性らが増えている。」
「工場長としてリサイクルの現場で働いていて、3年以内の稼働を目指す。当社の機械だけでなく、他社の機械も導入して、大規模なシステムでリサイクルのテストができる環境を構築する。廃プラリサイクルの①選別②粉砕・洗浄③ペレット造粒の3工程がある。土地購入を予定しており、3年以内の稼働を目指す。当社の機械だけでなく、他社の機械も導入して、大規模なシステムでリサイクルのテストができる環境を構築する。廃プラリサイクルの①選別②粉砕・洗浄③ペレット造粒の3工程がある。」

グループで「足固め」信頼構築

「2024年はM&A（買収・合併）を積極的に進めました。」
「昨年は超音波洗浄機などを手がける三井機械（東京都東村山市）、書籍や雑誌を制作するスタジオタンク（東京都台東区）、プラスチック成形加工の植木プラスチック（群馬県太田市）、薄膜（群馬県太田市）、薄膜（群馬県太田市）の4社をグループ化した。これによりグループの売り上げ規模は全体で100億円超となる見込みだ。」
「25年の目標は、グループ全社とも利益をさらに上積みすること。」
「グループ化のメリットは、信頼関係の構築が重要だ。」
「各社の業績が向上すると社員モチベーションが高まる。利益は社内留保に回すのではなく、社員に還元することで、仕事に対する意識も変わる。自ら考えて行動する社員を育てていくために、R&Dセンターを埼玉

インドなど海外でCNF強化

「2025年の事業環境は。」
「当社は超微細粉砕機の専門メーカーで、食品、セルロースナノファイバー（CNF）、リチウムイオン電池（Li-ion）向けが事業の3本柱。だが世界各国の情勢悪化など複数要因から、成長戦略は。」
「海外事業をさらに強化する。経済成長しているインドで、CNF向けの需要を獲得したい。インドではバイオエネルギーのほかに、プラザルでもCNF向けで当社製品の需要が高まっている。現地の展示会に例年より多く出展して、当社製品をアピールする。」
「フィリピン、マレーシアをはじめとした東南アジアではバイオエネルギーのほかに、プラザルでもCNF向けで当社製品の需要が高まっている。現地の展示会に例年より多く出展して、当社製品をアピールする。」



移転・拡張し、来年6月に完成する長岡工場（新潟県長岡市）



「渦巻き水流型アルカリ洗浄・選別装置「トルネード」」
「環境機械を製造するだけでなく、メーカーの視点でリサイクルを推進する。6月には海外から専門家を招いた国際的なシンポジウムも計画している。当社はシェアを高めて急成長を狙う『ユニコーン企業』ではなく、共存共栄しながら社会課題の解決や持続的な成長を目指す『ゼブラ企業』を目指していく。」



「動物用栄養補助食品「Rescure バランスリキッド」」
「今後の戦略は。」
「潤滑剤の事業をベイスに天然水や化粧品、動物用栄養補助食品など高付加価値品の事業を育てていく。昨年ほどの件数ではないが、今年もM&Aに取り組んで天然水や化粧品などの相乗効果を狙う。今夏をめどに本社1階を社員食堂兼カフェにするなど、福利厚生面を含めて従業員の働きやすい環境づくりに力を入れていく。」



主力の石臼式粉砕機・スーパーマスコロイダー

「現在販売している機械の機能拡充を図る方針だ。直近の事例では、顧客からの自動化を求める声を受けて、主力機・スーパーマスコロイダーを、お客さまから好評の計量器と連携し、より高精度で、当社の商品開発において大きな一歩だった。このほか、機械に搭載されたディスプレイ画面ではなく、iPad（アイパッド）などタブレット端末での遠隔操作に対応する機能を追加して24年11月に納品した。いずれもお客さまの要望を受けて開発したものだ。お客さまの要望を聞きながら、ハード面のカスタマイズだけでなくソフト面のカスタマイズを充実させていきたい。」

企業データ	企業データ	企業データ	企業データ
所在地＝埼玉県川口市本町1の12の24・048・222・4343>資本金＝1000万円>従業員数＝25人>設立＝1922年(大11)4月>URL＝http://www.masuko.com/	所在地＝さいたま市浦和区常盤9の21の14・048・824・2621>資本金＝5525万円>従業員＝約320人(グループ全体)>設立＝1988年(昭63)4月>URL＝https://www.harves.co.jp/	所在地＝埼玉県川口市安行北谷665・048・298・7700>資本金＝8304万円>従業員数＝65人>設立＝1979年(昭54)5月>URL＝https://www.nihon-cim.co.jp/	所在地＝埼玉県越谷市西方2761・048・988・2111>資本金＝2億3800万円>従業員数＝651人>設立＝1957年(昭32)12月>URL＝https://www.omori.co.jp/

さらなる成長に向け歩み進める

戸塚重量

社長

金子俊光氏

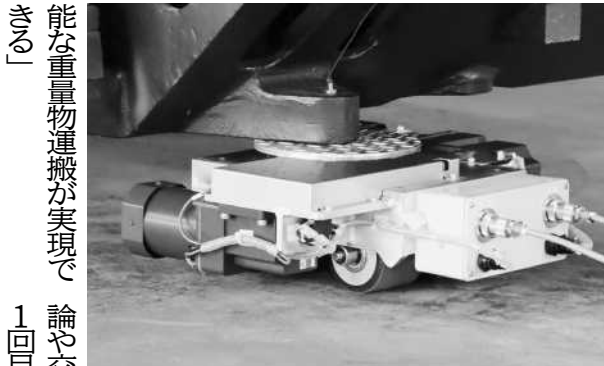


“重量屋”仲間づくり課題に挑む

「昨年物流の人手不足による『2024年問題』が話題になりました。変化をチャンスと捉えて取り組んだ結果、大手企業も運賃などの価格転嫁に協力的で生産性の向上にもつながった。機械メーカーだけでなく、機械を使って生産する企業から仕事も増え、新顧客の獲得なども広がった」

「2025年の計画は、4台目となるスウェーデン・スカニア製のトラックとイタリア製重機を導入する予定。発注から納入まで1年半ほどかかるが、今回の機種で70クラスの重量物も1台で移動可能になる。日本製トラックも含めて全体で8台体制になり、業務の効率化や働き方改革につながる」

「昨年は重量物運搬用の旋回式電動ローラー『ELEEV4・0』を開発し、海外でも注目を集めた。遠隔で操作できるメカニズムにより、新たな需要の拡大や用途開発も期待できる」



「重量物運搬用の旋回式電動ローラー『ELEEV4・0』は、作業機械など重量物の移動を手がける「重量屋」の業界団体設立に向けて、24年4月に設立準備委員会を発足しました。『これまで4回の会合を開いて議論や交流を進めてきた。1回目と2回目は日刊工業新聞社の本社で、3回目は愛知県あま市に本社がある八洲重工業、4回目は北九州市の宇佐美運輸機工で会社見学もしながらグループ討論などを行い、懇親を深めた。採用や育成など人の問題、お金の情報など、業界全体の課題は共通している。やはり仲間づくりは大切。法人格の団体にはこだわらず、コミュニティとして育てていければと考えている」

企業データ

▽所在地＝埼玉県川口市東川口6の14の16、048・973・297・1923▽資本金＝1500万円▽従業員＝16人▽設立＝1990年（平2）9月▽URL＝http://www.juryo.co.jp

飯能精密工業

社長

中山久喜氏



HD傘下で人材育成成長期待

「2025年の方針は、22年に新栄工業（千葉市花見川区）のM&A（合併・買収）を受け、23年には新栄ホールディングス（HD、東京都中央区）の傘下になった。これにより経営基盤が盤石化した。当社は歯科用ミラーなど医療分野の製品や遊戯機器関連の部品の加工など、プレスからアセンブリまで一貫生産できるのが強み。強みを生かした理念経営を実践し、強い組織を作る」

「創業は1970年で今年55周年を迎えます。父の中山住生が創業し、92年に現在の場所に本社工場を移転。10年に私が社長に就任した。M&Aにより新栄HDの中村新一社長が当社の社長に就任。24年には私が再び社長に就いた。従業員は約30人で半数以上が女性だ」

「HD傘下によるメリットは、海外ではタイのアユタヤ工場とインドネシアのチカラン工場の二つの生産拠点を構えています。客さまのおかけで、お客さまの役に立ててもらえるよう引き続き努めていきたい」



「HD傘下によるメリットは、海外ではタイのアユタヤ工場とインドネシアのチカラン工場の二つの生産拠点を構えています。客さまのおかけで、お客さまの役に立ててもらえるよう引き続き努めていきたい」

企業データ

▽所在地＝埼玉県飯能市芦刈場783、042・973・1251▽資本金＝4050万円▽従業員＝30人▽設立＝1970年（昭45）5月▽URL＝http://www.hns.co.jp/

高橋スプリング

社長

高橋良彰氏



海外で業界越え新規需要開拓

「2025年の国内の市場動向や今後の取り組みは、主力の容器向けスプリングは堅調に推移し、新規アイテムへの採用も拡大している。バネの線間の間隔を変えた絡み難いスプリングをお客さまに採用してもらうことで、組み立て効率をさらに向上させることに貢献していきたい」

「海外ではタイのアユタヤ工場とインドネシアのチカラン工場の二つの生産拠点を構えています。客さまのおかけで、お客さまの役に立ててもらえるよう引き続き努めていきたい」

「タイもインドネシアも自動車関連の市場は軟調に推移することが予想されており、業績回復に寄与する見込みがある」



「M&A（合併・買収）も情報も盛んに持ち込まれる中で、私自身も勉強しながら前向きに検討していきたい。海外での新規点設立の際には、社内でも育成が進む外国人従業員が大きな戦力になるだろう。25年には当社のこれからの数年が決まってくる重要な年に始まる。新しい事が始まる期待感をもつて進んでいけるようにしたい」

企業データ

▽所在地＝埼玉県越谷市七左町5の153、048・985・0341▽資本金＝3000万円▽従業員数＝350人（グループ全体）▽設立＝1949年（昭24）4月▽URL＝https://ts-g.co.jp/

NITTOKU

社長

笹沢純人氏

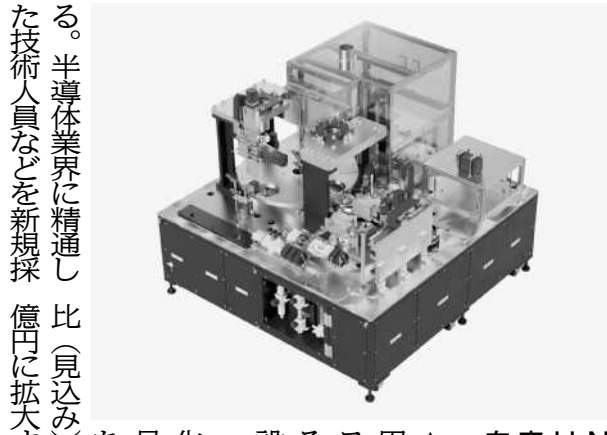


半導体後工程で業界標準設備

「足元の事業環境は、『長年培った巻線技術』を応用し、前後工程を含んだファクトリーオートメーション（FA）ライシンの開発・販売を強化し、好調に推移している。また国内半導体関連設備や、次世代太陽電池『ペロブスカイト太陽電池』を開発している」

「4月に『半導体関連市場投入する。すでに業界トップレベルの技術をもつ企業とのオープンイノベーションにより、切断された半導体チップを一つずつ取り別の部品に接合する『高精度ダイボンダー』を開発した。年内に国内で販売する」

「半導体関連の分野を事業本部として独立させ、開発が長期にわたることやあり収益のコントロールが難しい。一方、業界標準設備は収益効率が非常に高く成長に直結する」



「海外戦略は、Uが生産する車載モーター向け生産設備（イメージ）用し、20人ですタートす。業界標準設備の開発力・販売力を強化し、30年3月期の売上高を25年3月期に27倍の30億3000万円に向上する目標だ」

企業データ

▽所在地＝さいたま市大宮区東町2の292の1、048・615・2109▽資本金＝約68億円▽従業員数＝約480人▽設立＝1972年（昭47）9月▽URL＝https://nittoku.co.jp/